

北海道の自然資源を生かす、持続可能な観光とは

= アフリカなどから9か国の研修員が来道 =

自然資源の保全と観光活用における道内各地の取組みを学びます！

2026年1月29日から2月26日まで、政府や自治体などで観光開発に携わる9か国・11名の研修員が北海道で学びます。知床、美瑛・大雪エリア、小樽などの取組事例を取り上げ、自然資源の観光利用・開発とその保全の両立、地域住民の関わりなどについて学びます。

雄大な自然、極寒の冬を活かした北海道の持続可能な観光を学ぶ！

北海道ならではの厳しい冬季環境や大雪などは、一見すると観光地としてはマイナス要因に思われます。しかし北海道は、これらを積極的に観光資源として活用し、観光客を引きつけることで、世界有数の観光地として知られるようになりました。地理的環境や気候は異なるものの、各々の国が持つ資源を観光振興にうまく活用するという点では、北海道の経験は研修員の母国で役立つ知見です。

また、来日する研修員の母国でも、いずれもオーバーツーリズムや自然破壊などが共通の課題となっています。世界自然遺産・知床では、時期やエリアごとの入場制限や野生生物への接近・餌やり禁止などのルールにより、環境保護と観光振興の両立を図っています。オーバーツーリズムが深刻な美瑛では、デジタルツールを活用した渋滞・混雑回避や、観光マナーに関する条例制定などを通じて、住民生活や産業への悪影響低減に取り組んでいます。参加者は、北海道の事例からの学びを母国の観光振興に活かしていきます。

多種多様な観光資源を持つ国々からの研修員が来ます！

本研修には、アフリカ、大洋州、アジアの9か国（エジプト、ナミビア、ボツワナ、セーシェル、パラオ、マーシャル、ヨルダン、キルギス、東ティモール）から11名の研修員が参加します。ピラミッドなどの古代遺跡、砂漠やラグーンなどの自然、サファリに生息する野生動物など、数多くの観光資源で有名な国々です。各国では観光振興を推進していますが、様々な課題に直面しています。研修員は、北海道観光の知見から学び、学んだことを母国の観光振興に役立てるために来道します。研修の初週には、それぞれの自己紹介を兼ねた「お国自慢発表会」があります。それぞれの研修員が自分の国の観光ポイントをアピールしつつ、自分の国にはない自然や文化、歴史について議論し、母国の観光振興について共に学ぶ良い機会となります。

PRESS RELEASE



独立行政法人国際協力機構
北海道センター
2026年1月13日



持続可能な観光に関する有識者の方々の講義のほか、
雪まつりの視察などを含め小樽、美瑛、知床などを訪問予定です。

メディアの皆様の取材をお待ちしています！

【研修概要】

研修名：持続可能な観光資源管理・開発（自然資源）

研修期間：2026年1月29日（木）から2月26日（木）

研修場所：JICA 北海道（札幌）、北海道内各所

【取材・本件に関する問い合わせ先】

JICA北海道（札幌） 研修業務課 担当：阿部 かなえ

TEL 011-866-8393 e-mail : Abe.Kanae@jica.go.jp